

# 民生福祉常任委員会記録

平成30年4月23日

【開催日】 平成30年4月23日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後3時～午後5時12分

【出席委員】

委員長	吉永美子	副委員長	山田伸幸
委員	大井淳一朗	委員	杉本保喜
委員	恒松恵子	委員	松尾数則
委員	矢田松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰		
----	-----	--	--

【執行部出席者】

病院事業管理者	矢賀健	病院局事務部長	堀川順生
病院局事務部次長兼医事課長	岡原一恵	病院局総務課長兼庶務係長	和氣康隆
病院局総務課課長補佐兼経理係長	藤本義忠	病院局総務課経理係主任	村上陽子
病院局医事課医事係長	佐々木秀樹		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	議事係主任	原川寛子
------	-----	-------	------

【付議事項】

- 1 所管事務調査 山陽小野田市病院事業改革プランについて（病院）
- 2 所管事務調査 病院事業報告について（病院）

---

午後3時 開会

---

- 1 所管事務調査 山陽小野田市病院事業改革プランについて

【議事の概要】

- 公立病院改革プランの概要と策定の経緯の説明
- 改革プラン本文の改訂箇所の説明
  - ・4ページの「(2) 地域医療の水準を維持向上させる病院」に文章追加
  - ・5ページの「(4) 災害医療の確保」に文章追加
  - ・15ページに「(3) 一時借入金の削減」の項目追加
- 改革プラン参考資料の改訂箇所の説明  
(詳細は別紙資料参照)

## 【主な質疑】

### ○Ⅲ 1 (2) 地域医療の水準を維持向上させる病院

杉本保喜委員 「地域医療の水準の向上」の具体策はあるのか。

和氣病院局総務課長 白内障の手術を市民病院で実施することで、地域医療の水準向上も図れると考えている。ほかの診療科でも検討していきたい。

杉本保喜委員 具体的に進めるのが、平成32年頃と考えていいのか。

堀川病院局事務部長 眼科については、機械を3月中に購入し、研修等も3月に実施している。手術は本年度の早い時期にできると考えている。

大井淳一郎委員 眼科以外は分析しているのか。ほかに市外への流出が多い診療科はあるのか。

堀川病院局事務部長 眼科以外もあるので、どれが一番早く取り組んでいけるかも含めて検討していきたい。

大井淳一郎委員 市民病院としての中間的な役割を果たすために、どこに力を入れていくのか。

堀川病院局事務部長 今回局長も替わったので、更に協議を進めていきたい。

大井淳一郎委員 市内三つの病院をどのような形で関連付けていくべきと考えているか。

矢賀病院事業管理者 採算性、住民のニーズ、職員の満足度の三つを考慮しながら総合的に対策を立てていかないと、すぐ結論を出すのは難しい。

大井淳一郎委員 市民病院で病院機能評価を取り入れる考えは。

矢賀病院事業管理者 職員にかなり負担が掛かる作業なので、時間を掛けないと準備ができないが、受けることも一つの選択肢として考えていきたい。

### ○Ⅲ 1 (4) 災害医療の確保

矢田松夫委員 災害病院の指定はこれまでなぜできなかったのか。

堀川病院局事務部長 非常用電源の燃料の確保が半日ないし1日しかないので、3日分のタンクの容量があるものを設置することが一番のネックになっている。ヘリポートは建物の南側で離着陸ができるが、小石が飛ぶなどの問題があるので、今後考えていきたい。

矢田松夫委員 非常用電源の関係は病院ができるときにやっておくべきではなかったのか。

堀川病院局事務部長 熊本地震の後、災害に強い病院を造りたいということで、DMATの隊員の資格を取り、DMATの車両と車庫を整備した。次に非常用電源の3日間の供給をどういう形でやるか協議しているところである。病院の建設時には災害拠点病院の話はなかったと思う。

杉本保喜委員 容量の大きな燃料タンクを設置する場所があるのか。いつまでに設置するのか。

堀川病院局事務部長 いつまでというのはまだ決まっていない。場所は地下に埋設する予定でいる。

杉本保喜委員 土地が低いので、タンクの設置場所はしっかり考慮してもらいたい。

堀川病院局事務部長 耐震性が要るし、離れていれば圧送ポンプも必要になるので、埋設する場所は今後検討していきたい。

大井淳一郎委員 いつぐらいに災害拠点病院の指定を受ける見込みか。

堀川病院局事務部長 災害に強い病院をなるべく早く作っていきたい。

大井淳一郎委員 業務継続計画（HCP）改訂の進捗状況と中身についてはどうか。

和氣病院局総務課長 昨年度の訓練をもって見直しを進めてはいるが、まだ改訂には至っていない。

大井淳一郎委員 地震、津波あるいは高潮等が起きた場合に、目の前の道路がつかって、緊急車両が入れないと危惧されている。災害拠点病院の指定に支障はあるのか。

堀川病院局事務部長 海拔ゼロメートルだから駄目ということはない。進入路は舗装を厚くしているが、潮の関係で変わってくる。病院にいる方々の安全を守るために2階、3階に速やかに上がる訓練等はしている。

大井淳一郎委員 当初の計画ではロビーを使ってトリアージという説明もあったが、本当に市民病院で対応できるのか。

堀川病院局事務部長 駐車場でトリアージをする、高潮等で駐車場が使えない場合は2階で行うというHCPを作成している。病院機能が十分対応できる場合に、受け入れることになる。

大井淳一郎委員 宇部医療圏では労災が災害拠点病院に指定されているが、病院間での連携について話合いはしているのか。

堀川病院局事務部長 大規模な災害になれば県に災害対策本部が立ち上がる。イーミスのシステムに全てのデータを入れるようになっており、それを見て、県が搬送先を決めることになる。DMATの隊員はそういう訓練をしているので、労災病院とも横の連携はできると考えている。

山田伸幸副委員長 ヘリポートは異常な大雨でも使えるような高さが確保されているのか。

堀川病院局事務部長 若干のかさ上げはしている。常時使えるかどうかは実際の災害にならないと分からない。

山田伸幸副委員長 外科の医師が少ない状況で災害が起きたときにどの程度まで受け入れられるのか。

堀川病院局事務部長 外科医は常勤で3名、整形外科系が4名いるが、災害がいつ起こるかによって全然違う。震度5強で全員参集となっているが、来られるか分からないので、回答はできかねる。

山田伸幸副委員長 以前の入院患者しか扱わないという方針から転換したのか。

堀川病院局事務部長 資源の範囲でやる。全てを受け入れられるかどうかを含めて、トリアージを訓練している。

杉本保喜委員 燃料タンクの応急電源はどれぐらいの期間回せるのか。

堀川病院局事務部長 約1日弱と聞いている。

杉本保喜委員 透析患者も抱えており、1日では心もとない。3日は必要ではないか。

堀川病院局事務部長 1日はあくまでも非常電源の話で、太陽光等のいろいろなエネルギーで対応する。病院としての機能が確保できなければ近隣の病院にも応援を求めたい。

山田伸幸副委員長 非常用電源の燃料を地下に埋設と言われたが、もし地震が来たときには液状化が起きて、安定的に保てないのではないか。

堀川病院局事務部長 専門家とも協議して対応したい。

松尾数則委員 316号側に道路を付けるという話があったが、どうか。

堀川病院局事務部長 今の形状のままでも対応していくつもりである。

松尾数則委員 新たな橋を付けるということはないのか。

堀川病院局事務部長 財政的な面から考えても、病院単独で橋を架けるという考えはない。

松尾数則委員 災害拠点病院となれば、恐らく国からの助成もかなり増えると思うが、どのぐらいお金が入るのか。

堀川病院局事務部長 それはない。したがって決してもうけるという考えはない。病院経営で黒字になれば、医療の質の向上に努め、患者に返していきたい。

山田伸幸副委員長 地震で有帆川堤防が決壊したときに、病院はどのように対応するのか。

堀川病院局事務部長 電源施設等については、堤防以上の高さのところに確保している。機器等は2階以上に設置しているので、大丈夫と考えている。

山田伸幸副委員長 津波というのは単なる浸水ではない。本当に災害のことを勉強しているのか。

堀川病院局事務部長 2年前、実際に熊本にも行き、またDMATの講習も受

けて隊員にもなっている。

○IV 2 (3) 一時借入金の削減

山田伸幸副委員長 前回の繰入れで済むのか、これで収支改善されたと考えていいのか。

堀川病院局事務部長 28年度から29年度にかけて外部コンサルを入れて経営改善に努めてきたが、まだ経費の大幅な削減の途中である。職員一丸となって頑張っていきたい。

山田伸幸副委員長 病院経営の経験者の力が必要ではないのか。

堀川病院局事務部長 30年度は今の体制で頑張っていきたい。

大井淳一郎委員 労災病院ではどのように経営難を乗り越えてきたのか。

矢賀病院事業管理者 労災病院では地域連携室長をしており、紹介率は45%から70%弱まで上がってきた。市民病院でも紹介率を上げるなど入院患者の確保をするためにもう少し努力できるのではないのか。

山田伸幸副委員長 地域連携室が充実していれば患者満足度も高い傾向にある。市民病院の現在の体制はどうか。

堀川病院局事務部長 地域連携室は4月から体制の強化を図っている。地域連携室のほか、後方支援病院にも引き続き力を入れていきたい。

○参考資料5 ページ(5) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

吉永美子委員長 健康福祉部との連携は具体的にどのようにやっていくのか。

矢賀病院事業管理者 国保のデータを活用して病気の重症化を防ぐことができないか考えている。今年度中に保健師とタイアップして具体的な活動を始めていきたい。

吉永美子委員長 今までは健康福祉部と余り連携はなかったのか。

堀川病院局事務部長 経営会議に健康増進課長も参加している。出産・子育てや未病などほかの部署との連携に更に力を入れていきたい。

吉永美子委員長 出産は市民病院の大きな武器として市外に向けても売り出してほしいが、どのように努力しているのか。

堀川病院局事務部長 病院ではなかなかアピールできない部分があるが、いい評判でSNSなどに取り上げられるよう頑張っていきたい。産婦人科医が4名、そのうち女性が2名というのは大変強みだと思う。

山田伸幸副委員長 都会では産婦人科医が見付からなくて困っている。そういう人たちに対して市民病院での出産をアピールしてほしい。国がベッド数削減を言っているが、市民病院の影響はどうか。

堀川病院局事務部長 現在、市民病院ではベッド数を変更することはない。

杉本保喜委員 入院のしおりに出産する友達に渡して勧めてもらいやり方もあ

るのではないか。

堀川病院局事務部長 改訂する病院のしおりに産婦人科を前面に出している。

市民病院の産科がいいと広がれば、輪も広がってくると思う。どういう形でアピールするかは考えていきたい。

山田伸幸副委員長 里帰りを待つのではなく、攻めの経営が必要であるが、手一杯でこれ以上来たら困る状況なのか。

堀川病院局事務部長 過重な労働にならない範囲内でやっていきたい。縁もゆかりもない方が来るというのも参考になるので、研究したい。

#### ○参考資料 17 ページ (2) 材料費

矢田松夫委員 以前は「より積極的な」という言葉があったが、なぜ削ったのか。

和氣病院局総務課長 「薬品費の比率 14%程度として算定する」と記述していた部分を「14%程度となっているが、価格交渉等によりこの割合の低減を図るものとする」と改めた。当然積極的に交渉していく。

#### ○改革プラン全般

杉本保喜委員 平均在院日数を 17 に設定した理由は。

和氣病院局総務課長 今回、この数値は変更していない。

堀川病院局事務部長 7対1の病院であれば13から14になるが、10対1であれば15から17が平均と思う。

岡原病院局事務部次長 10対1の基準を満たすとすると、3か月平均で21日以内が必要になる。21日より少なめの17日を目標に掲げている。

大井淳一郎委員 患者の満足度を上げようとするなら7対1、効率性を高めるならDPCを取ることだが、市民病院は今後どのような形で進めるのか。

矢賀病院事業管理者 在院日数を短くすると、現状ではどうしても空床が出てくる。短ければいいという単純なものではない。他の急性期病院でも7対1は維持できなくなっているので、当院では現時点では考えていない。

山田伸幸副委員長 入院単価や外来患者数が目標を達成するか不安である。目標設定と今後の対応についてどのように考えているのか。

矢賀病院事業管理者 外来患者数は全国の公的病院から見れば、決して少なくない。入院患者をもうちょっと増やしていきたい。

矢田松夫委員 30名を目標に医師の確保をしていく考えなのか。

矢賀病院事業管理者 30人が達成できるか分からないが、市全体、病院全体で取り組まないといけない課題であると思っている。

吉永美子委員長 医師クランクの活用についての認識はどうか。

矢賀病院事業管理者 医師クランクが40ベッドに一人の割合で6人入っているが、医師数からしたら少ない。また日ごとに科を移動しているが、専門性を持ってトレーニングしないと使いにくい。医師の業務の軽減につながるので、もう少し詳しく検討したい。

大井淳一郎委員 外来の診療科別の目標設定や分析の考えはどうか。

矢賀病院事業管理者 科の特徴があるので、科別に業績を整理しないと行けないと思っている。

## 2 所管事務調査 病院事業報告について（病院）

### 【議事の概要】

- ・平成29年11月、12月、平成30年1月分の患者数、経営状況及び資金繰りの報告
- ・平成29年12月、平成30年1月、2月、3月に開催された経営会議の概要の報告
- ・患者満足度調査アンケート集計結果の報告  
(詳細は別紙資料参照)

### 【主な質疑】

山田伸幸副委員長 インフルエンザが大流行したが、この程度の変化しかないのか。

岡原病院局事務部次長 インフルエンザによる収支の影響額は持ち合わせていない。

矢田松夫委員 警備について常々思っていたことが、アンケート結果に現れている。

和氣病院局総務課長 警備の職員は、実際入院患者と接触することがそんなに多くないので、無回答が多いのではないかと。警備については、全体的には良好に業務をされていると把握をしている。

杉本保喜委員 全く接触がないのも一緒に無回答に入れるというのはデータの取り方としてはおかしいと思うが、どうか。

和氣病院局総務課長 看護部に伝えており、次回からは検討すると思う。

大井淳一郎委員 具体的な改善事例は何か。

和氣病院局総務課長 例えば清掃については毎月1回の業者との打合せの際に改善の話をしている。

大井淳一郎委員 売店に対するものはどういう内容か。

和氣病院局総務課長 もう少し商品を置いてほしいという意見や、イートイン

スペースがないことに対する不満もあるのではないか。

杉本保喜委員 食事に対するアンケートは好みもあるので、聞き方に工夫が必要ではないか。

和氣病院局総務課長 自由記述なのでいろいろなことを書かれているが、質問の設定については今後考えていかないといけないと思う。

吉永美子委員長 次のアンケートはいつ取るのか。

和氣病院局総務課長 1年に1回している。

山田伸幸副委員長 待ち時間はどのような工夫をしているのか。

堀川病院局事務部長 「あと何番目」とか、「何時から何時の受付の人が次」とか、それを工夫している診療科もある。呼び出しフォンの活用の推進もしていく。

吉永美子委員長 内科の医師クラークの活用はどうか。

堀川病院局事務部長 2月1日から加算を取るということで、二人増やして、待ち時間を少しでも短くしようと考えている。

山田伸幸副委員長 待ち時間を待ち時間と感じさせないやり方が必要ではないか。山大ではカフェでコーヒーを飲み、時間になれば携帯電話に連絡してもらえる。ストレスを感じさせないような対策についてはどうか。

堀川病院局事務部長 診療科に図書館と協力して本も置いており、その充実と、呼び出しフォンの推進をしないといけないと思う。

---

午後5時12分 散会

---

平成30年4月23日

民生福祉常任委員長 吉永美子